
藤尾慎一郎年譜

- 1959 年（昭和 34 年）
3 月 福岡市生まれ
- 1977 年（昭和 52 年）
4 月 広島大学文学部考古学研究室入学
- 1981 年（昭和 56 年）
3 月 同上卒業
4 月 九州大学大学院文学研究科修士課程入学
- 1983 年（昭和 58 年）
3 月 同上修了
4 月 九州大学大学院文学研究科博士後期課程進学
- 1986 年（昭和 61 年）
3 月 同上単位取得退学
4 月 九州大学文学部考古学研究室助手着任
- 1988 年（昭和 63 年）
3 月 国立歴史民俗博物館考古研究部助手着任
- 1999 年（平成 11 年）
11 月 同上 助教授
- 2002 年（平成 14 年）
10 月 博士（文学） 広島大学文学部
- 2003 年（平成 15 年）
4 月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任
- 2004 年（平成 16 年）
4 月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授
4 月 総合研究大学院大学担当助教授（文化科学研究科担当）任命
- 2007 年（平成 19 年）
4 月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授
4 月 総合研究大学院大学担当准教授（文化科学研究科担当）任命
- 2008 年（平成 20 年）
10 月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授
10 月 総合研究大学院大学担当教授（文化科学研究担当）任命
- 2009 年（平成 21 年）
4 月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任
- 2010 年（平成 22 年）4 月～2015 年（平成 27 年）3 月
人間文化研究機構国立歴史民俗博物館運営会議委員任命
- 2011 年（平成 23 年）4 月～2013 年（平成 25 年）3 月
人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究推進センター センター長併任
- 2013 年（平成 25 年）4 月～2016 年（平成 28 年）3 月
人間文化研究機構国立歴史民俗博物館副館長（館内担当）併任
- 2013 年（平成 25 年）4 月～2017 年（平成 29 年）3 月
人間文化研究機構教育研究評議会評議員指名
人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究総主幹併任
-

2016 年（平成 28 年）4 月～2017 年（平成 29 年）3 月

人間文化研究機構国立歴史民俗博物館副館長併任

2020 年（平成 22 年）4 月～2023 年（令和 4 年）3 月

人間文化研究機構国立歴史民俗博物館運営会議委員任命

2024 年（令和 6 年）

3 月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 定年退職

総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授 退職

4 月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館名誉教授

総合研究大学院大学名誉教授

〈共同研究代表者〉

2005～2007 基盤研究「縄文・弥生集落遺跡の集成的研究」

成果：『縄文・弥生集落遺跡の集成的研究』国立歴史民俗博物館研究報告第 149 集，372 頁，2009.3

藤尾慎一郎・李昌熙 2010.12.28 「歴博国際研究集会「日韓先史時代の集落研究」開催報告」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第 160 集，73-188）。

2009～2011 基幹研究「新しい古代像樹立のための総合的研究」（総括研究代表），B「農耕社会の成立と展開—弥生時代像の再構築—」

成果 1：基幹研究「農耕社会の成立と展開」編著『国立歴史民俗博物館研究報告』第 185 集，530 頁，2014.3

成果 2：藤尾慎一郎編『弥生時代って，どんな時代だったのか？』国立歴史民俗博物館研究叢書 1，朝倉書店，172 頁，2017.3

2015～2017 年度 基幹研究「日本の原始・古代史像新構築のための研究統合による年代歴史学の新展開—新領域開拓と研究発信—」

成果 1：総合展示リニューアルオープン

成果 2：松木武彦と共編著『ここが変わる！日本の考古学—先史・古代史研究の最前線』吉川弘文館，193 頁，2019.3

〈企画展示代表者〉

2005 年 7～8 月 国立歴史民俗博物館・国立科学博物館共催「縄文 v.s. 弥生」国立科学博物館

2014 年 7～8 月 企画展「弥生ってなに？」

『平成 26 年度企画展示図録 弥生ってなに?!』128 頁，国立歴史民俗博物館，2014.7

〈総合展示代表者〉

2012～2023 年度

2019 年 3 月 19 日 総合展示第 1 室「先史・古代」リニューアルオープン

〈科学研究費代表者〉

2011 年～2013 年 基盤研究 B「日韓古代人骨の分析化学・年代学的研究と三国時代の実年代」

成果：藤尾慎一郎編著 2016.3 『日韓古代人骨の分析化学・年代学的研究と三国時代の実年代』科学研究費基盤研究 B 成果報告書（2011～2013），152 頁

2018 年～2022 年 新学術領域（研究領域提案型）「ゲノム配列を核としたヤポネシア人の起源と成立の解明」（総代表 斎藤成也 国立遺伝学研究所教授）B01「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」研究代表

成果：『国立歴史民俗博物館研究報告』第 218 集，第 219 集，第 228 集，第 229 集（特集号），第 234 集，第 237 集（特集号），第 240 集，第 242 集（特集号：Web のみ）

〈データベース〉

藤尾慎一郎編 (1996) 農耕開始期の石器組成 1・2 国立歴史民俗博物館資料調査報告 7
「縄文・弥生集落遺跡 DB」2012 年 3 月, 研究代表者 (25,544 件)

〈博物館資料図録〉

春成秀爾・藤尾慎一郎 (2009.3)『弥生青銅器コレクション』国立歴史民俗博物館館蔵図録 6, 254 頁

〈総合研究大学院大学日本歴史専攻〉

主任指導教員 李昌熙 (現釜山大学校考古学科副教授)

〈非常勤講師〉

九州大学, 名古屋大学, 専修大学, 広島大学, 筑波大学, 武蔵大学, 東京学芸大学, 放送大学, 釜山大学
校人文大学考古学科

〈外部委員〉

日本学術会議連携委員 (史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会)
加曽利貝塚総括報告書編集部会委員

〈国際交流代表者〉

2010 ～ 2015 年度 「日韓古代人骨の分析化学・年代学的研究と三国時代の実年代」研究代表者
2015 ～ 2017 年度 (財) 嶺南文化財研究院「日韓における弥生～古墳時代の考古・分析科学的総合研究」
研究代表者
2016 ～ 2023 年度 国立釜山大学校博物館学術交流「総合展示第 1 室新構築に展示する資料の展示協力,
研究者の相互交流に関する交流協定」

藤尾慎一郎主要業績目録

I 著書

【単著】

- 『縄文論争』 講談社選書メチエ 256 講談社 250 頁 (2002.12)
『弥生変革期の考古学』 同成社 260 頁 (2003.10)
『新弥生時代』 歴史文化ライブラリー 329, 吉川弘文館 271 頁 (2011.10)
『弥生文化像の新構築』 吉川弘文館 275 頁 (2013.5)
『弥生時代の歴史』 講談社現代新書 2330 講談社 248 頁 (2015.8)
『日本の先史時代—旧石器・縄文・弥生・古墳時代を読みなおす』 中公新書 2654, 中央公論社, 299 頁.
(2021.8)
『弥生人はどこから来たのか—最新科学が解明する先史日本—』 歴史文化ライブラリー 587, 吉川弘文館, 221 頁 (2024.3)

【編著】

- 『儀礼と権力』(設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦) 弥生時代の考古学 7, 同成社 232 頁 (2008.5)
『集落からよむ弥生社会』(設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦) 弥生時代の考古学 8, 同成社 266 頁
(2008.9)
『弥生文化誕生』(設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦) 弥生時代の考古学 2, 同成社 226 頁 (2009.1)
『弥生社会のハードウェア』(設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦) 弥生時代の考古学 6, 同成社 254 頁
(2009.4)
『弥生文化の輪郭』(設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦) 弥生時代の考古学 1, 同成社 282 頁 (2009.12)
『弥生研究のあゆみと行方』(設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦) 弥生時代の考古学 9, 同成社 248
頁 (2011.11)
『平成 26 年度企画展示図録 弥生ってなに?』 国立歴史民俗博物館, 128 頁 (2014.7.15)
『弥生時代ってどんな時代だったのか?』 国立歴史民俗博物館研究叢書, 172 頁, 朝倉書店. (2017.3)
『わくわく! 探検 わくわく日本の歴史』1~5, 藤尾慎一郎企画総括, 吉川弘文館. (2017.10 ~
2019.1)
『ここが変わる! 日本の考古学—先史・古代史研究の最前線—』(藤尾慎一郎・松木武彦 共編著), 吉
川弘文館. 193 頁, (2019.3.1)
『再考! 縄文と弥生—日本先史文化の再構築』吉川弘文館, 216 頁, (2019.3.10)
『考古学と DNA』季刊考古学第 166 号, 雄山閣, 126 頁 (2024.2.1)

II 論文等

【原著論文】

- 「弥生時代前期の刻目突帯文系土器—「亀ノ甲タイプ」の再検討—」『九州考古学第 59 号』, pp.35-46,
九州考古学会. (1984.12.20)
「宇木汲田遺跡 1984 年度調査出土の土器について—刻目突帯文土器を中心に—」(共著者/横山浩一)
『九州文化史研究所紀要第 31 号』, pp.59-101, 九州文化史研究施設. (1986.3.25)
「板付 I 式甕形土器の成立とその背景」『史淵第 124 輯』, pp.1-27. (1987.3.31)
「稲作受容期の甕形土器研究」『東アジアの考古と歴史 (中)』, pp.294-323, 同朋舎出版. (1987.11)
「九州の甕棺—弥生時代甕棺墓の分布とその変遷—」『国立歴史民俗博物館研究報告第 21 集』, pp.141-
206. (1989.3.30)
「西部九州の刻目突帯文土器」『国立歴史民俗博物館研究報告第 26 集』, pp.1-77. (1990.3.10)
「水稻農耕開始期の地域性」『考古学研究第 38 巻 2 号』, pp.30-54. (1991.9)

-
- 「水稻農耕と突帯文土器」『日本における初期弥生文化の成立』横山浩一先生退官記念論文集Ⅱ，pp.187-270，文献出版。（1991.2.28）
- 「生業からみた縄文から弥生」『国立歴史民俗博物館研究報告第48集』，pp.1-66。（1993.3.25）
- 「南九州の突帯文土器」『鹿児島考古第27号』，pp.22-38。（1993.7）
- 「ブリテン新石器時代における死の考古学」『国立歴史民俗博物館研究報告第68集』，pp.215-251，（1996.3.29）
- 「福岡平野における弥生文化の成立過程—狩猟採集民と農耕民の集団関係—」『国立歴史民俗博物館研究報告第77集』，pp.51-84。（1999.3.25）
- 「出雲平野における弥生文化の成立過程—弥生Ⅰ期突帯文系土器がかたる農耕民化」『国立歴史民俗博物館研究報告第83集』，pp.97-127。（2000.3.31）
- 「朝鮮半島の「突帯文土器」」『韓半島考古学論叢』，pp.89-124，すずさわ書店（2002.5.31）
- 「弥生文化と日鮮同祖論」『人類にとって戦いとは5』，pp.35-76，東洋書林（2002.11）
- 「瀬戸内における遠賀川系甕の成立過程—弥生土器瀬戸内起源説の検証—」『環瀬戸内の考古学—平井勝氏追悼論文集—』，pp.283-312，古代吉備研究会（2002）
- 「近畿における遠賀川系甕の成立過程—摂津・河内・大和の弥生甕—」『国立歴史民俗博物館研究報告第108集 歴博20周年記念論文集』，pp.45-66。（2003.10.31）
- 「AMSからみた弥生時代の開始年代」『考古学ジャーナルNo.510』，pp.8-11。（2003）
- 「1.1 鉄と出会った日本列島の人々—本格的製鉄開始以前—」『近世たたら製鉄の歴史』，pp.2-22，丸善プラネット社（2003）
- 「西日本における弥生甕の成立」『考古論集—河瀬正利先生退官記念論文集—』，pp.343-362，同刊行会（2004.3）
- 「弥生時代の鉄」『国立歴史民俗博物館研究報告第110集』，pp.3-29。（2004.2.27）
- 「日本の穀物栽培・農耕の開始と農業社会の成立—さかのぼる穀物栽培と生産経済への転換—」『国立歴史民俗博物館研究報告第119集』，pp.117-137。（2004.3.31）
- 「農耕開始期の園耕民と農耕民—西北ヨーロッパと九州北部の比較研究—」『文化の多様性と比較考古学—考古学研究会50周年記念論文集—』，pp.11-18。（2004.3.31）
- 「弥生時代の開始年代—AMS-炭素14年代測定による高精度年代体系の構築」（共著者／今村峯雄・西本豊弘）『総研大文化科学研究創刊号』，pp.73-96。（2005.9）
- 「縄文農耕と弥生製鉄」『考古論集』（川越哲志先生退官記念論文集），pp.215-228，同刊行会（2005.11）
- 「AMS-炭素14年代測定法が明らかにした日本の鉄の歴史」『鉄と鋼 Vol.91-No.1』，pp.11-15，（社）日本鉄鋼協会。（2005）
- 「弥生時代中期の実年代—長崎県原の辻遺跡出土資料を中心に—」（共著者／今村峯雄）『国立歴史民俗博物館研究報告第133集』，pp.199-229。（2006.12.20）
- 「GISにもとづく佐賀平野における縄文～弥生時代の遺跡分布」『実践考古学GIS』pp.290-297，NTT出版株式会社。（2006.12.25）
- 「土器型式を用いたウィグルマッチングの試み」『国立歴史民俗博物館研究報告第137集』，pp.157-185。（2007.3.30）
- 「弥生開始期の集団関係—古河内潟沿岸の場合—」『国立歴史民俗博物館研究報告第152集』，pp.373-400。（2009.3.31）
- 「校正年代を用いた弥生集落論」『国立歴史民俗博物館研究報告第149集』，pp.135-161。（2009.3.31）
- 「古墳出現期の炭素14年代測定」（共著者／春成秀爾・小林謙一・坂本稔・今村峯雄・尾寄大真・西本豊弘）『歴博研究報告』第163集，pp.133-176。（2011.3）
- 「弥生時代前半期の塩作り」『弥生時代 下』講座日本の考古学6』，pp.157-184，青木書店。（2011.9.5）
- 「弥生文化の輪郭—灌漑式水田稲作は弥生文化の指標なのか—」『国立歴史民俗博物館研究報告第178集』，pp.85-120。（2012.3.1）
- 「弥生鉄史観の見直し」『国立歴史民俗博物館研究報告第185集』，pp.155-182。（2014.2.28）
-

-
- 「西日本の弥生稲作開始年代」『国立歴史民俗博物館研究報告第183集』, pp.113-143. (2014.3.31)
- 「『初期青銅器時代』の提唱—鉄器出現以前の弥生時代—」『国立歴史民俗博物館研究報告第231集』, pp.267-298. (2022.2.25)
- 「考古学データとDNA分析からみた弥生人の成立と展開」(共著者／篠田謙一・坂本稔・瀧上舞)『国立歴史民俗博物館研究報告第237集』, pp.17-69. (2022.11.30)
- 「岡山大学構内遺跡における水田稲作の開始年代—I 期中段階の堰の酸素同位体比年輪年代と炭素14年代—」(共著者／坂本稔・佐野雅規)『文明動態学 vol.2』, pp.18-31, 岡山大学文明動態学研究所. (査読あり) (2023.3.30)
- 「弥生文化における鉄の意義」『弥生文化博物館研究報告第8集』, pp.65-75, 大阪府立弥生文化博物館30周年記念論文集. (2023.3.31)
- 「水田稲作開始期の気候変動」『何が歴史を動かしたのか 弥生文化と世界の考古学第2巻』, pp.7-18, 雄山閣. (2023.9.25)
- 「弥生人の成立と展開Ⅱ」『国立歴史民俗博物館研究報告第242集』, pp.35-60. (2023.9.29)
- 「ミュオン非破壊分析法を用いた銅鎔部の下層に残存する金属部分の組成分析」(共著者／齋藤努・濱田孝司・反保元伸・竹下聡史・土居内翔伍・橋本亜紀子・梅垣いづみ・久保謙哉・工藤拓人・二宮和彦・三宅康博)『文化財科学第87号』, pp.17-30. (2023.8.25)

【総説論文】

- 「1984年の歴史学界—回顧と展望—弥生時代」『史学雑誌 94-5』, pp.21-25 (1985.5.20)
- 「縄文から弥生へ—水田稲作の開始か定着か—」『日本民族・文化の生成 1』, pp.437-452, 六興出版 (1988.3)
- 「1987年の動向—弥生時代(西日本)—」『考古学ジャーナル 291』, pp.57-67. (1988.6)
- 「水稲農耕と突帯文土器」『日本における初期弥生文化の成立』, pp.187-270, 文献出版 (1991)
- 「展望 ケンブリッジの空のもとで」『考古学研究 42-2』, pp.38-51. (1995.9)
- 「弥生人は製錬をおこなっていたか」『弥生の鉄文化とその世界』, pp.48-53 北九州市立考古博物館 (1995)
- 「稲作開始期の社会情勢(上・下)」『耕 71・72』, pp.30-40, pp.10-19. (1996.12.31, 1997.3.31)
- 「社会構成を反映した防御施設」『立体復原の日本の歴史(上)』, pp.50-53, 新人物往来社 (1997)
- 「福岡平野にみる農耕民化の三つの型」『遺伝 52-10』, pp.27-31. (1998.10)
- 「弥生時代の戦いに関する諸問題—鉄・鉄素材の実態と戦い—」『人類にとって戦いとは2 戦いのシステムと対外戦略』, pp.12-55, 東洋書林 (1999.6.25)
- 「貝の道以前—弥生早・前期の琉球と九州の交流—」『日本人と日本文化—News Letter No.9』, p.9. (1999.7)
- 「コメのもつ意味」『新弥生紀行—北の森から南の海へ—』, pp.122-123, 朝日新聞社 (1999.3)
- 「日本における稲作と水稲農耕の始まり」『東アジアにおける農耕社会の形成と文明への道』, pp.61-67. (2000.1.31)
- 「弥生文化の範囲」『倭人をとりまく世界—2000年前の多様な暮らし—』, pp.158-171, 山川出版社 (2000.4)
- 「朝鮮半島南部における早・前期無文土器時代の畠作社会」『日本人と日本文化—News Letter No.14』, 17. (2000)
- 「最近の発掘成果が語る日本古代史」『じっしきょう地歴・公民科資料No.51』, pp.1-6. (2000)
- The Relationship between Kaya and Silla and Western Japan in terms of Iron Production from the First Century BC to the Sixth Century AD. *Journal of East Asian Archaeology* vol.2, 3-4, pp.96-103, BRILL, Leiden. (2000)
- 「倭国乱れ, 相攻伐して年を歴たり—倭人の戦さ—」『三国志からみた倭人社会』, pp.107-130, 山川出版社 (2001)
- 「弥生開始期の実年代」『考古学ジャーナル 510』, pp.8-11. (2003.12)
-

-
- 「国立歴史民俗博物館の展示手法と理念」『Museum Kyushu76』, pp.3-9, 博物館等建設推進九州会議. (2003.12)
- 「展望 炭素 14 年代とリザーバー効果—西田茂氏の批判に就いて—」(共著者／今村峯雄)『考古学研究 50-4』, pp.3-8, 考古学研究会 (2004.3)
- 「弥生期の考古学的研究 (西日本) 縄文時代・弥生時代の高精度年代体系の構築—文部科学省科学研究費補助金基盤研究 A (1) 研究成果報告書—」, pp.44-47. (2004.3)
- 「日本列島における農耕の始まり」『文化の多様性と 21 世紀の考古学—考古学研究会 50 周年記念国際シンポジウム予稿集』, pp.62-73, 考古学研究会 (2004.4)
- 「韓国・九州・四国の実年代 春成・今村編 弥生時代の実年代—炭素 14 年代をめぐる—」, pp.6-19, 学生社 (2004.5)
- 「弥生時代と鉄」『ふえらむ 9-6』, pp.30-34, (社) 日本鉄鋼協会. (2004.6)
- 「新弥生年代の試み」『季刊考古学 88』, pp.23-28, 雄山閣. (2004.8.1)
- 「AMS- 炭素 14 年代測定法が明らかにした日本の鉄の歴史」『鉄と鋼 91-1』, pp.11-15, (社) 日本鉄鋼協会. (2004.11)
- 「GIS にもとづく佐賀平野における縄文～弥生時代の遺跡分布」『世界の歴史空間を読む—GIS を用いた文化・文明研究』, pp.307-314, 国際日本文化研究センター. (2006.6.30)
- 「第 19 回国際放射性炭素会議参加記」『考古学研究 53-2』, pp.1-5. (2006.9)
- 「九州地方における年代測定の結果—とくに縄文晩期について—」『弥生時代の新年代 新弥生時代のはじまり第 1 巻』, pp.90-94. (2006.5)
- 「弥生時代の開始年代」『縄文時代から弥生時代へ 新弥生時代のはじまり第 2 巻』, pp.7-19. (2007.5.20)
- 「九州における弥生時代中期の開始年代」『縄文時代から弥生時代へ 新弥生時代のはじまり第 2 巻』, pp.45-51. (2007.5.20)
- 「九州～瀬戸内における弥生稲作の開始年代」『東アジアの古代文化 134 集』, pp.2-25, 大和書房. (2008.2)
- 「概説Ⅲ：弥生時代」pp.96-97, 学習研究社. (2008.3)
- 「コラム 弥生時代の刀狩り」広瀬和雄・仁藤敦史編『支配の古代史』pp.38-44, 学生社. (2008.3)
- 「日韓青銅器文化の実年代」『東アジア青銅器の系譜 新弥生時代のはじまり第 3 巻』, pp.138-147, 雄山閣 (2008.5.30)
- 「弥生時代の実年代」『新弥生時代のはじまり第 4 巻』, pp.9-54, 雄山閣. (2009.3.10)
- 「総論 縄文から弥生へ・弥生前史」『弥生文化誕生 弥生時代の考古学 2』, pp.3-16, 同成社. (2009.1.30)
- 「板付 I 式を創ろうとした村, 創れた村, 創れなかった村」『弥生文化誕生 弥生時代の考古学 2』, pp.105-113, 同成社. (2009.1.30)
- 「炭素 14 年の記録から見た自然環境変動—弥生文化成立期—」(共著者／今村峯雄)『弥生文化誕生 弥生時代の考古学 2』, pp.47-58, 同成社. (2009.1.30)
- 「弥生農耕のはじまりと年代」『新弥生時代のはじまり第 4 巻』, pp.9-53. (2009.3.10)
- 「弥生文化の輪郭—時間・地域・年代論—」『弥生文化の輪郭 弥生時代の考古学 1』, pp.3-21, 同成社. (2009.12.20)
- 「バルト海沿岸の農耕化と弥生文化—エルテペレ文化を中心に—」『弥生文化の輪郭 弥生時代の考古学 1』, pp. 89-111, 同成社. (2009.12.20)
- 「日本の歴史空間を読む—弥生時代—」(共著者／山口欧志) 宇野隆夫編『ユーラシア古代都市・集落の歴史空間を読む』, pp.21-41, 勉誠出版. (2010.3.25)
- 「交流の窓 鉄器は語る」『歴史地理教育増刊号 No.777』, pp.22-25, (2011.7)
- 「稲・鉄史観成立の検証と研究の行方」(共著者／松木武彦)『弥生研究のあゆみと行方 弥生時代の考古学 9』, pp.3-14 (全体は 23 頁まで), 同成社. (2011.11.5)
- 「弥生鉄史観の検証と行方」『弥生研究のあゆみと行方 弥生時代の考古学 9』, pp.117-132, 同成社. (2011.11.5)
-

- 「志布志市稲荷迫遺跡出土弥生前期突帯文土器の年代学的調査—大隅半島の弥生前期の実年代—」（共著者／坂本稔・東和幸）『縄文の森から 第 6 号』, pp.1-12, 鹿児島県立埋蔵文化財センター研究紀要・年報. (2013.5)
- 「日本における農耕の起源」『「はじまり」を探る』, pp.141-154, 東京大学出版会. (2014.9.30)
- 「九州北部における晩期初頭の実年代—福岡市香椎 A 遺跡出土土器を中心に—」（共著者／坂本稔）『広島大学大学院文学研究科考古学研究室 50 周年記念論文集・文集』, pp.51-54, 広島大学. (2016.12)
- 「弥生文化範囲論の射程」『季刊考古学』 138, pp.51-54, 雄山閣. (2018.2.1)
- 「先史時代（縄文・弥生・古墳）の年代と時代区分 三 弥生時代の年代」（共著者／小林謙一・松木武彦）『先史・古代の気候と社会変化 気候変動から読みなおす古代史 3』, pp.45-50, 臨川書店. (2020.9.30)
- 「縄文・弥生文化移行期の社会変動」『「亀ヶ岡文化」論の再構築』季刊考古学別冊 25』, pp.21-27, 雄山閣. (2018.3.24)
- 「登呂遺跡と洪水」『資料が語る災害の記録と記憶 国立歴史民俗博物館研究叢書 6』, pp.56-74, 朝倉書店. (2019.3.15)
- 「再論・農耕開始期の器種構成比率」『農耕文化複合形成の考古学 下—農耕がもたらしたもの—』, pp.55-70, 雄山閣. (2019.10.25)
- インタビュー「弥生時代に現代日本人の DNA は作られた！」『大論争 日本人の起源』 pp.177-211, 宝島社新書. (2019.11.11)
- 「水田稲作の伝播—人々の移動と気候変動—弥生早期～中期末—」『先史・古代の気候と社会変化 気候変動から読みなおす古代史 3』, pp.67-97, 臨川書店. (2020.9.30)
- 「気候変動と水田稲作のはじまり」『先史・古代の気候と社会変化 気候変動から読みなおす古代史 3』, pp.73-79, 臨川書店. (2020.9.30)
- Early Grain Cultivation and Starting Processes in the Japanese Archipelago. Quaternary-04-00003, pp.1-15. (2021.1.27)
- 「九州南部～奄美群島出土人骨の年代学的調査と DNA 分析—新学術領域「ヤボネシアゲノム」」（共著者／木下尚子, 坂本稔, 瀧上舞, 篠田謙一, 神澤秀明, 角田恒雄, 竹中正巳）『鹿児島考古第 50 号』, pp.235-243, 鹿児島県考古学会. (2021.3.31)
- 「稲作以前の考古学」『季刊民族学 177』, pp.20-24. (2021.7.31)
- 「土器と DNA—伊勢湾沿岸地域における水田稲作民と採集・狩猟民—」『科学 1074 号』, pp.125-132. 岩波書店. (2022.2.1)
- 「弥生時代の列島社会—弥生文化とはどのようなものだったか」『論点日本史学』, pp.12-13, ミネルヴァ書房. (2022.8.20)
- 「数値年代と DNA がもたらすこれからの弥生文化研究」『考古学雑誌 105-2』, pp.89-103. (2023.3.15)
- 「考古学データとヤボネシア人」『考古学ジャーナル 779』, pp.5-9. (2023.2.22)
- 「岡山大学構内遺跡における水田稲作の開始年代—I 期中段階の堰の酸素同位体比年輪年代と炭素 14 年代—」（共著者／坂本稔・佐野雅規）『文明動態学 Vol.2』, pp.18-31, 岡山大学文明動態学研究所. (2023.3)
- 「弥生文化における鉄の意義」『弥生文化博物館研究報告第 8 集』, pp.65-75. (2023.3.31)

Ⅲ 報告書

- 「福岡市早良区有田七田前遺跡 1985 年度発掘調査」（藤尾慎一郎編）九州文化史研究所紀要第 32 号, pp.73-126. (1987.3.25)
- 「唐津市宇木汲田遺跡における 1984 年度の発掘調査 (2)」（藤尾慎一郎編）九州文化史研究所紀要第 32 号, pp.1-13. (1987.3.25)
- 「日本・韓国における鉄生産技術」（藤尾慎一郎編）『国立歴史民俗博物館研究報告第 58・59 集』, 534 頁, 367 頁（本文）, 134（図版）(1994.12.15)

-
- 「農耕開始期の石器組成 1・2」(藤尾慎一郎編)『国立歴史民俗博物館資料調査報告 7』。(1996)
- 「日本・韓国の鉄生産技術・補遺編」『国立歴史民俗博物館研究報告第 66 集』, pp.1-68. (1996.2.29)
- 「調査研究活動報告「企画展示『倭国乱る：卑弥呼の登場まで』」」『国立歴史民俗博物館研究報告第 76 集』, pp.141-173. (1998.3.31)
- 「中・四国地方の弥生 I 期突帯文系土器―出雲市蔵小路西遺跡出土土器の位置づけ」『蔵小路西遺跡』一般国道 9 号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 2, pp.251-260, 島根県埋蔵文化財センター. (1999.3)
- 「弥生文化成立期の西日本・韓国の土器」考古学資料集 No. 19 (藤尾慎一郎編), 国立歴史民俗博物館. 171 頁 (2001.3.31)
- 「朝鮮半島の環壕集落 東アジアの囲壁・環壕集落集成」(共著者／安在皓), 考古学資料集 No. 26, pp.61-63, pp.145-166, 国立歴史民俗博物館 (2001)
- 「農耕開始期の物質文化」日本人および日本文化の起源に関する学際的研究研究成果報告書 II, pp.53-60. (2002.3.)
- 「福岡市笠拔遺跡出土杭の年代学的調査」(共同執筆／今村峯雄・坂本稔)『笠拔遺跡 1・2 次調査』pp.94-99, 福岡市埋蔵文化財調査報告書 752 集. (2003.3)
- 「福岡市雀居遺跡出土土器に付着したススの年代学的調査」(共同執筆／今村峯雄・坂本稔), 『雀居遺跡 9』別冊, pp.27-32, 福岡市埋蔵文化財調査報告書 748 集. (2003)
- 「佐賀県唐津市梅白遺跡出土資料の年代学的調査」(共同執筆／今村峯雄・坂本稔)『梅白遺跡』, pp.360-366, 佐賀県文化財調査報告書 154 集. (2003.3.31)
- 「研究動向 II 基幹研究「歴史における戦争の研究―II―1 人類にとって戦いとは―」」『国立歴史民俗博物館研究報告第 109 集』, pp.397-414. (2004)
- 「吉田遺跡出土炭化材の ^{14}C 年代測定」(共同執筆／小林謙一・今村峯雄・坂本稔)『対馬吉田遺跡―縄文時代遺跡の発掘調査―』, pp.49-51. (2004)
- 「高知県土佐市居徳遺跡出土土器の ^{14}C 年代測定」(共同執筆／小林謙一・今村峯雄・坂本稔・松崎浩之)『居徳遺跡群 VI』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査報告書第 91 集, pp.281 ~ 296). (2004)
- 「壱岐市原の辻遺跡出土土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定」(共同執筆／小林謙一・今村峯雄・坂本稔・尾寄大真)『壱岐原の辻遺跡総集編 I』, 長崎県文化財発掘調査報告書第 30 集, pp.297 ~ 308. (2005)
- 「東広島市黄幡 1 号遺跡出土土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定」(共著者／坂本稔・小林謙一・尾寄大真・新免歳靖・春成秀爾・今村峯雄)『黄幡 1 号遺跡発掘調査報告書』, pp.97-105, (財)東広島市教育文化振興事業団. (2005.3)
- 「岱明町玉名平野条里跡出土土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定」(共著者／坂本稔・小林謙一・尾寄大真・新免歳靖)『玉名平野条里跡―県道長洲玉名線単県橋梁改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査―』熊本県文化財調査報告第 226 集, pp.83-86. (2005)
- 「長崎県深江町権現脇遺跡出土土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定」(共著者／小林謙一)『権現脇遺跡』深江町文化財調査報告書第 2 集, pp.623-635. (2006.3)
- 「長崎県佐世保市門前遺跡出土試料の ^{14}C 年代測定」(共著者／小林謙一)『門前遺跡』一般国道 497 号佐々佐世保道路埋蔵文化財発掘調査報告書, 長崎県文化財調査報告書第 290 集, pp.313-318. (2006.3)
- 「大分市玉沢条里跡遺跡出土土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定」(共著者／小林謙一)『玉沢地区条里跡第 7 次発掘調査報告』植田市民行政センター建設に伴う発掘調査報告書, pp.129-140, 大分市埋蔵文化財調査報告書題 66 集. (2006.3)
- 「熊本市八ノ坪遺跡出土弥生土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定」(共著者／小林謙一)『八ノ坪遺跡 I』分析・考察・図版編, pp.45-52, 熊本市教育委員会. (2006.3)
- 「佐賀市東畑瀬遺跡出土の縄文晩期土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定」(共著者／小林謙一)『東畑瀬遺跡 1・大野遺跡 1』佐賀県文化財調査報告書第 170 集, pp.223-230. (2007.3)
-

-
- 「唐津市大江前遺跡出土の弥生早～前期土器に付着した炭化物の炭素14年代測定」(共著者／小林謙一)『中原遺跡Ⅰ』西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(4), 佐賀県文化財調査報告書第168集, pp.162-173. (2007.3)
- 「鹿児島県南種子町広田遺跡出土炭化物の炭素14年代測定」(共著者／小林謙一)『廣田遺跡』平成16～平成18年度町内遺跡等発掘調査事業, pp.199-207, 南種子町教育委員会. (2007.9)
- 「農耕開始期における石器データ」GISを基盤とする考古・歴史民俗・環境情報の高度連携研究, pp.17-40. 人間文化研究機構人間文化研究総合推進事業 連携研究中間報告書. (2008.3)
- 「福岡市西区福重稲木遺跡第2次調査出土の弥生早期～前期土器に付着した炭化物の年代学的調査」(共著者／遠部愼)『福重稲木遺跡2』, pp.92-97, 福岡市埋蔵文化財調査報告書第1006集. (2008.3)
- 「大道遺跡群第7次調査出土の古墳前期土器に付着した炭化物の炭素14年代測定」(共著者／遠部愼)『大道遺跡群1』pp.69-73, 大分市埋蔵文化財調査報告書第79集. (2008.3)
- 「名古屋市朝日遺跡(14次)出土の炭化材の炭素14年代測定」(共著者／遠部愼・坂本稔・村木誠・伊藤正人・野澤則幸)『名古屋市見晴台考古資料館研究紀要』10, pp.15-24. (2008.3)
- 「弥生時代井堰の年代—福岡県小郡市力武内畑遺跡の年代学的調査—」(共著者／今村峯雄・山崎頼人)『国立歴史民俗博物館研究報告』第153集, pp.117-128. (2009.12)
- 「大分市大道遺跡群第15次調査出土土器の年代学的調査」(共著者／坂本稔)『大道遺跡群』3—大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6—, pp.175-178, 大分市埋蔵文化財発掘調査報告書第99集. (2010.3.31)
- 「大分市大道遺跡群第24次調査出土白と土器の年代学的調査」(共著者／今村峯雄・坂本稔)『大道遺跡群』3—大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6—, pp.179-187, 大分市埋蔵文化財発掘調査報告書第99集. (2010.3.31)
- 「徳島市庄・蔵本遺跡群出土炭化物の年代学的調査」(共著者／坂本稔・住田雅和)『国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室年報2』, pp.53-60. (2010.3.31)
- 「歴博国際研究集会「日韓先史時代の集落研究」開催報告」(共著者／李昌熙)『国立歴史民俗博物館研究報告』第160集, pp.73-188. (2010.12.28)
- 「歴史学研究施設の活動紹介—人間文化研究機構国立歴史民俗博物館2011年度—」『日本歴史学協会年報』第27号, pp.229-231. (2012.3)
- 「鳥取平野における水田稲作開始期の年代学的調査」(共著者／濱田竜彦・坂本稔)『国立歴史民俗博物館研究報告第185集』, pp.489-509. (2014.2.28)
- 「本高弓ノ木遺跡710溝出土土器の年代学的調査」(共著者／濱田竜彦・坂本稔) (『鳥取県鳥取市本高弓ノ木遺跡(5区)Ⅰ』第3分冊【遺物(土器・石器・鉄器)・分析編】), pp.199-214, 一般国道9号(鳥取西道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ, 鳥取県教育委員会. (2014.3)
- 「福岡県小郡市大保横枕遺跡の年代学的調査—弥生前期の二重環壕を備えた集落の年代—」(共著者／山崎頼人・坂本稔), 『国立歴史民俗博物館研究報告』第185集, pp.471-487. (2014.2.28)
- 『日韓古代人骨の分析化学・年代学的研究と三国時代の実年代』(編著)科学研究費基盤研究B「日韓古代人骨の分析化学・年代学的研究と三国時代の実年代」成果報告書(2011～2013), p.152. (2016.3.)
- 「岡山市上伊福・南方(済生会)遺跡出土弥生土器の年代学的調査」(共著者／坂本稔)岡山市埋蔵文化財センター研究紀要第11号, pp.19-31. (2019.3)
- 「弥生長期編年にもとづく時代と文化」『再考!縄文と弥生—日本先史文化の再構築—』pp.159-185, 吉川弘文館. (2019.3.10)
- 「登呂遺跡と洪水」『資料が語る災害の記録と記憶 国立歴史民俗博物館研究叢書6』, pp.56-74, 朝倉書店. (2019.3.15)
- 「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明—2019年度の調査1—」(共著者／木下尚子, 坂本稔, 瀧上舞, 篠田謙一)『国立歴史民俗博物館研究報告第228集』, pp.247-265. (2021.3.31)
- 「愛知県清須市朝日遺跡出土弥生人骨の年代学的調査」(共著者／坂本稔・瀧上舞)『国立歴史民俗博物館研究報告』第228集, pp.267-275. (2021.3.31)
-

- 「佐賀県唐津市大友遺跡出土人骨の年代学的調査」(共著者／坂本稔・瀧上舞)『国立歴史民俗博物館研究報告第228集』, pp.375-384. (2021.3.31)
- 「博多遺跡群第203次調査出土弥生中期人骨の年代学的調査」(共著者／瀧上舞・坂本稔) (2021.3.31)
- 『考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明—2019年度の調査(2)—』(編著)『国立歴史民俗博物館研究報告第229集』, 227頁. (2021.10.29)
- 「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明—2019年度の調査(2)—」(共著者／木下尚子・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一)『国立歴史民俗博物館研究報告第229集』, pp.3-14. (2021.10.29)
- 「한국 경북 영천 완산동 고분군 출토 삼국시대 인골의 DNA 분석 (韓国慶北永川完山洞古墳群出土三国時代人骨のDNA分析)」(共著者／篠田謙一・神澤秀明・角田恒雄・安達登・清家章)『영천 - 신경주 복선전철 1공구 내 영천 완산동 산 28-5 번지 유적 (永川 - 新慶州複線鉄1工区内永川完山洞山 28-5番地遺跡)』 pp.439-453. (財)ウリ文化財研究院, 韓国. (2022.1.31)
- 「熊本大学医学部所蔵縄文時代の人骨の年代学的調査」(共著者／山田康弘・木下尚子・坂本稔・瀧上舞)『国立歴史民俗博物館研究報告第234集』, pp.121-147. (2022.3.31)
- 「福岡県行橋市長井遺跡出土弥生人骨のミトコンドリア DNA 分析」(共著者／神澤秀明・角田恒雄・瀧上舞・坂本稔・安達登・篠田謙一)『長井遺跡 市道長井浜公園1号線関係埋蔵文化財発掘調査報告』 pp.83-88, 行橋市文化財調査報告書第68集. (2022.3.31)
- 『新学術領域研究「ヤポネシアゲノム」計画研究』(編著) 考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明,『国立歴史民俗博物館研究報告第237集』, (2022.11.30)
- 『考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明—2020年度の調査—』(共著者／木下尚子・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一)『国立歴史民俗博物館研究報告第237集』, pp.3-16. (2022.11.30)
- 「福岡県行橋市長井遺跡出土弥生人骨の年代学的調査」(共著者／坂本稔・瀧上舞),『国立歴史民俗博物館研究報告第237集』, pp.127-133. (2022.11.30)
- 「熊本大学医学部所蔵弥生時代の人骨の年代学的調査」(共著者／瀧上舞・坂本稔),『国立歴史民俗博物館研究報告第240集』, pp.331-350. (2023.3.31)
- 「新学術領域研究「ヤポネシアゲノム」計画研究」(編著)『考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明』『国立歴史民俗博物館研究報告第242集』, (2023.9.30)
- 「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明—2021年度の調査(2)—」(共著者／木下尚子・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一),『国立歴史民俗博物館研究報告第242集』, pp.3-14. (2022.11.30)

IV 学会・シンポジウム等

- 水稻農耕開始期の地域性 考古学研究会総会 岡山大学 1991年4月
- Why did Yayoi period begin? From the Jomon to Star Carr: An international conference on the Hunter-Gatherer of East and West Temperate Eurasia. Cambridge & Durham U.K. 3rd to 12th September. 1995年9月3～12日
- 九州における弥生時代の始まり 第13回「大学と科学」公開シンポジウム 検証・日本列島—自然, ヒト, 文化のルーツ 福岡大手門会館 1998年11月7～8日
- 日本における稲作と水稻農耕の始まり—さかのぼる穀物栽培と生産経済への転換過程— 東アジアにおける農耕の拡散と文明への道— 第3回歴博国際シンポジウム 国立歴史民俗博物館 2000年1月31～2月4日
- Who played an important part in the formation of the Yayoi?. Society for East Asian Archaeology 2th Worldwide Conference. Durham U.K. 6th to 9th July 2000年7月6～9日
- 朝鮮半島南部における早・前期無文土器時代の畠作社会 日本人・日本文化学際シンポジウム 国際日本文化研究センター 2000年8月1・2日
- 辺境の新石器文化 第33回歴博フォーラム 縄文の扉を世界に開く 国立歴史民俗博物館 2001年4月28日
- 弥生時代の鉄 古代東アジアにおける倭と加耶の交流 第5回歴博国際シンポジウム 国立歴史民俗博

- 博物館 2002 年 3 月 13～16 日
- 弥生開始期の土器編年と試料解説 弥生時代の実年代 国立歴史民俗博物館国際研究集会 国立歴史民俗博物館 2003 年 3 月 22 日
- 弥生時代の開始年代—¹⁴C 年代の測定結果について— 日本考古学協会第 69 回研究発表会（春成秀爾・今村峯雄・坂本稔と共同発表）pp.65-68 日本大学文理学部 2003 年 5 月 25 日
- AMS 法による弥生時代開始期の実年代 考古学研究会 2003 年度第 2 回東京例会 明治大学 2003 年 10 月 12 日
- ドイツの戦争展示 歴史展示を考える—民俗・戦争・教育— 第 7 回歴博国際シンポジウム国立歴史民俗博物館 2003 年 11 月 15・16 日
- 東日本の弥生的文化 合同学会 明治大学 2003 年
- 日本列島における農耕の始まり 文化の多様性と 21 世紀の考古学 考古学研究会 50 周年記念国際シンポジウム 岡山大学 2004 年 4 月 17・18 日
- 弥生時代の開始年代—¹⁴C 年代の測定結果について— 日本考古学協会第 70 回研究発表会（春成秀爾・今村峯雄・坂本稔・小林謙一と共同発表）千葉大学 2004 年 5 月 24 日
- (15) 弥生時代の実年代—¹⁴C 年代の測定結果について— 有限責任中間法人日本考古学協会第 70 回総会研究発表要旨, pp.73-76, 2004 年 5 月 23・24 日
- 鉄関連遺物の分析と評価—考古学から望むこと— (社)日本鉄鋼協会社会鉄鋼部会「鉄の歴史—その技術と文化—」フォーラム 「鉄関連遺物の分析評価」研究 Gr・「前近代製鉄実見」研究 Gr・第 3 回予稿集 pp.44-55, 弘済会館（四谷）, 2004 年 6 月 12 日
- AMS Radiocarbon Dating for the Beginning of the Yayoi Period in Japan, Society for East Asian Archaeology 2004 International Congress, Daejeon Korea 16th to 19th June, 2004 年 7 月 16～19 日
- 弥生時代中期の実年代—¹⁴C 年代の測定結果について— 有限責任中間法人日本考古学協会第 71 回総会研究発表要旨, pp.130-133, 国士舘大学（世田谷）, 2005 年 5 月 22 日
- 「弥生土器の付着炭化物を対象とした炭素 14 年代測定による弥生文化の高精度年代体系」（今村峯雄・坂本稔・尾寄大真と連名）。The 19th International C14 Conference in Oxford, U.K. オックスフォード大学カレッジ, 2006 年 4 月 3～7 日
- 「弥生時代中期の実年代—¹⁴C 年代の測定結果について—」有限責任中間法人日本考古学協会『第 71 回総会研究発表要旨予稿集』, pp.77-80, 東京学芸大学（春成秀爾・今村峯雄・小林謙一・坂本稔・尾寄大真と連名）, 2006 年 5 月 28 日
- 「日韓青銅器文化の年代」歴博国際シンポジウム 2006「古代東アジアの青銅器文化と社会—起源・年代・系譜・流通・儀礼—」, 佐倉, 2006 年 12 月 1～3 日
- 「弥生時代前・中期の実年代」有限責任中間法人日本考古学協会『第 72 回総会研究発表要旨予稿集』, pp.32-33, （春成秀爾・今村峯雄・小林謙一・坂本稔・西本豊弘と連名）, 明治大学 2007 年 5 月 27 日
- Present status of the Yayoi chronology project: Origin and spread of wet-rice agriculture in Japanese archipelago, Korea, （今村峯雄・坂本稔・小林謙一・尾寄大真・遠部慎・宮田佳樹と連名）, ソウル大学校, 2007 年 10 月 23 日～25 日
- 「弥生時代の実年代」有限責任中間法人日本考古学協会『第 74 回総会研究発表要旨予稿集』, pp.44-45, （小林謙一・坂本稔・西本豊弘・春成秀爾・今村峯雄・広瀬和雄・尾寄大真・光谷拓実・中村俊夫・松崎浩之）東海大学, 2008 年 5 月 20 日
- 考古学と炭素 14 年代 学術フォーラム pp.69-82, 京都 アランヴェールホテル京都, 2008 年 2 月 23 日
- 『日韓先史時代の集落研究』平成 21 年度国立歴史民俗博物館研究集会発表要旨集, （藤尾慎一郎・李昌熙編）京都同志社大学, 2009 年 10 月
- 「実年代の求め方」第 88 回釜山大学史学会, 釜山, 2012 年 3 月 24 日
- （財）東亜細亜文化財研究院創立 10 周年国際シンポジウム, 2013 年 11 月 18 日
- （財）嶺南文化財研究院創立 20 周年記念国際シンポジウム, 2015 年 1 月 24 日
- 「日本の原始・古代にみる画期と気候変動との関係」総合地球環境学研究所研究プロジェクト「高分解

- 能古気候学と歴史・考古学の連携による気候変動に強い社会システムの探索」, 国立民族学博物館, 2016年1月24日
- The Interaction between the Hunter-gatherer and the Farmer.WAC-8, Kyoto. 2016年8月29日
- 「弥生長期編年にもとづく弥生墳墓論—佐賀県吉野ヶ里遺跡を中心に—」遺伝研共同利用研究集会「日本列島人（ヤポネシア）人のゲノム歴史学」国立遺伝学研究所, 2017年8月16日
- 「紀元前1千年紀における韓半島南部から九州西北部への文化複合体の拡散」Korea-Japan dendrochronology workshop towards a new phase of archaeology. Woori Research, Korea., 2017年8月20日
- 「弥生長期編年における時代と文化」可視化・高度化シンポジウム第1回「再考！縄文と弥生—歴博がめざす日本先史文化の再構築—」東京国際交流館国際交流会議場, 2017年12月2日
- 「35年でここまでわかった日本の先史・古代—国立歴史民俗博物館の新しい「先史・古代」展示について—」共同利用機関シンポジウム, 名古屋市科学館, 2018年10月14日
- 「縄文人は穀物を栽培していたのか」第72回日本人類学会大会一般シンポジウム, 国立遺伝学研究所, 2018年10月21日
- 「岡山市上伊福・南方（済生会）遺跡出土弥生土器の年代学的調査」『岡山市埋蔵文化財センター紀要』pp.19-31, 岡山市埋蔵文化財センター, (藤尾慎一郎・坂本稔), 2019年3月
- 「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明—2019年度活動報告—」『第86回日本考古学協会総会研究発表要旨』pp.24-25. 誌上発表。(藤尾慎一郎, 木下尚子, 清家章, 濱田竜彦, 坂本稔, 瀧川舞, 篠田謙一), 2020年5月17日
- 「佐賀県大友遺跡8号支石墓出土土骨のDNA調査」令和2年度九州考古学会総会研究発表, ZOOM.(藤尾慎一郎, 坂本稔, 瀧上舞, 篠田謙一, 神澤秀明, 角田恒雄, 宮本一夫) 2020年11月28日
- 「韓国新石器時代・三国時代のDNA分析からわかったこと—慶尚道出土土骨を中心に—」第87回日本考古学協会総会 セッション3 「古代DNA解析と考古学の接点」要旨集, p.57, 専修大学, 2021年5月23日
- 「数値年代とDNAがもたらすこれからの弥生文化研究」日本考古学会第120回総会記念講演, 東京国立博物館, 2022年10月29日
- 「ゲノムからみた弥生時代人の多様性」『令和4年度九州考古学会総会研究発表資料集』pp.26-35. (藤尾慎一郎・篠田謙一), 2022年11月25日, 九州大学伊都キャンパス
- 「渡来系弥生人の源流」『釜山大学校考古学科特殊講義』釜山大学校考古学科, 2023年2月24日

V 展示

- 国立歴史民俗博物館企画展示「再現・古代の豪族居館の世界」(1990年9月18日～11月18日)
- 国立歴史民俗博物館・総合展示第1展示室暫定改善「稲と倭人」(1995)
- 国立歴史民俗博物館・総合展示第1展示室暫定改善「前方後円墳の時代」(1996)
- 国立歴史民俗博物館企画展示「倭国乱—一卑弥呼の登場まで—」(1996年10月1日～11月24日)
- 国立歴史民俗博物館企画展示「陶磁器の文化史」(1998年3月24日～5月5日)
- 国立歴史民俗博物館企画展示「新弥生紀行—北の森から南の海へ—」(1999年3月9日～5月9日)
- 国立歴史民俗博物館企画展示「縄文文化の扉を開く—三内丸山遺跡から縄文列島へ—」(2001年3月20日～5月20日)
- 国立歴史民俗博物館企画展示「はにわ—形と心—」(2003年3月18日～6月8日)
- 国立歴史民俗博物館企画展示「歴史を語るサイエンス」(2003年10月21日～11月30日)
- 国立歴史民俗博物館・総合展示 歴博プロムナード (2004)
- 国立歴史民俗博物館企画展示「東アジア中世海街道—海商・港・沈没船—」(2005年3月23日～5月22日)
- 国立歴史民俗博物館企画展示「水辺と森と縄文人—低湿地遺跡の考古学—」(2005年6月14日～7月31日)

国立歴史民俗博物館・国立科学博物館共同開催「縄文 VS 弥生」(2005年7月16日～8月31日)
国立歴史民俗博物館企画展示「弥生はいつから!?—年代研究の最前線—」(2007年7月3日～9月2日)
国立歴史民俗博物館企画展示「弥生ってなに?!」(2014年7月15日～9月15日)
国立歴史民俗博物館・総合展示第1室リニューアル—Ⅲ 水田稲作のはじまり(2019年3月19日～)

Ⅵ その他

教科書

「4 年代決定論②—絶対年代—」『新訂考古学』pp.65-85, 放送大学教育振興会. (2018.3.20)
「8 農耕民の生活技術」『新訂考古学』pp.143-162, 放送大学教育振興会. (2018.3.20)

エッセイ

「大陸起源の顔」『歴博』47号, p.1, 国立歴史民俗博物館 (1990.6)
「縄文人と渡来人」第101回歴博講演会『歴博』54号, p.12, 国立歴史民俗博物館 (1992.5.9)
資料紹介「岐阜市瑞龍寺山遺跡出土内行花文鏡」『歴博』55号, 巻頭裏, 国立歴史民俗博物館 (1992.10)
「歴史系博物館の未来—イギリス歴史展示事情—」『歴博』69号, pp.8-11, 国立歴史民俗博物館 (1995.2)
「弥生戦死者の証言」『倭国乱る』pp.44-45, 朝日新聞社. (1996.10.1)
「倭国乱に先立つ戦い」『倭国乱る』pp.174-179, 朝日新聞社. (1996.10.1)
「歴史への招待状—企画展示倭国乱る—」『歴博』78号, pp.26-29, 国立歴史民俗博物館 (1996.9)
「福岡平野にみる農耕民化の三つの型—先史時代人の生活(3)—」『遺伝』52巻10号, pp.27-29 (1998.10)
「九州における弥生時代の始まり—弥生人の登場と農耕社会化—」『検証・日本列島—自然, ヒト, 文化のルーツ』pp.38-42, 第13回大学と科学公開シンポジウム予稿集 (1998.11)
「コメのもつ意味」『新弥生紀行—北の森から南の海へ—』pp.122-123, 朝日新聞社. (1999.3)
「貝の道以前—弥生早・前期の琉球と九州の交流—」『日本人と日本文化—その起源を探る—』No.9, p.9. (1999.7.31)
「朝鮮半島南部における早・前期無文土器時代の畠作社会」『日本人・日本文化学際シンポジウム』予稿集, pp.40-43. (2000.8.1)
「最近の発掘成果が語る日本古代史」『じっきょう—地歴・公民科資料 No.51』, pp.1-6. (2000.9)
「黒井峯・西組遺構—歴史と民俗「疑問」と「回答」—」『友の会ニュース No.116』p.6, 歴史民俗博物館振興会 (2004)
歴史への招待状—「企画展示「縄文 vs 弥生」」『歴博』133号, pp.24-25. 国立歴史民俗博物館 (2005.11)
研究者紹介 [22]「私と考古学」『歴博』134号, (2006.1)
「九州における縄文晩期末～弥生前期の実年代」『弥生農耕の起源と東アジアニューズレター No.5』pp.8-9. (2006.4)
「19th International Radio Carbon Conference 報告」『学術創成 News Letter』No.5, pp.8-9, (2006.9).
展望「第19回国際放射性炭素会議参加記」『考古学研究第53巻2号』, pp.1-5. (2006.9)
「較正年代の求め方—九州北部縄文晩期～弥生前期を中心に—」(藤尾慎一郎・尾寄大真)『弥生農耕の起源と東アジアニューズレター No.6』pp.6-9. (2006.12)
「弥生時代の水田稲作をめぐる諸問題」『歴博』141号, p.9. 国立歴史民俗博物館 (2007.3)
歴史への招待状—企画展示「弥生はいつから!?」『歴博』143号, pp.24-25. 国立歴史民俗博物館 (2007.7.20)
「ついに出了」『弥生農耕の起源と東アジアニューズレター No.8』, p.3 (2007.8)
「歴史けんきゅう便 32 [共同研究紹介]「縄文・弥生集落遺跡の集成的研究」」『歴博』148号, (2008.5)
「弥生時代の実年代」『弥生農耕の起源と東アジアニューズレター No.11』, pp.4-5. (2009)
「白の一生—卑弥呼と同時代に生きたクスがたどった人生—」(藤尾慎一郎・今村峯雄)『弥生農耕の起源と東アジアニューズレター No.11』, pp.2-3. (2009)
インタビュー「見直される弥生時代」『歴史地理教育 2011-4』, pp.10-19. (2011.4.1)
「鉄器は語る」『歴史地理教育 2011-7』, pp.22-25. (2011.7)
「最北端の水田稲作」『本郷』No.96, pp.23-25. (2011.11.1)

-
- 歴史への招待状―「企画展示 弥生ってなに?」『歴博』184号, pp.24-25, 国立歴史民俗博物館 (2014.5.30)
- 「「弥生ってなに?」展を企画したねらい」『友の会ニュースNo.173』pp.2-3, 歴史民俗博物館振興会 (2014.6.5)
- 「新しい弥生時代像の構築」『學士會会報』第907号, pp.4-15, 講演録 (2014.7.1)
- 「本格化した交流―前10～前3世紀―」『歴博』第186号, pp.6-10, 国立歴史民俗博物館. (2014.7.20)
- 総合展示第1室「原始・古代」リニューアル速報」『友の会ニュース No.180』pp.1-2, 歴史民俗博物館振興会 (2015.8.5)
- 記念講演2「数値年代から見る弥生文化観」『巨大環濠集落の実像』池上曾根遺跡史跡指定40周年記念事業記録集, pp.25-32, 大阪府立弥生文化博物館 (2016.10)
- インタビュー「弥生時代は、いつごろどこに?」『原子力文化』571号, pp.3-10. (2017.5.1)
- 「弥生時代はなかった? 本当の歴史を解明する考古学」『人間会議』2017夏, pp.146-149, 事業構想大学院大学出版部. (2017.6.5)
- 「世界史のなかの弥生時代・弥生文化」『歴博』204号, pp.2-5, 国立歴史民俗博物館. (2017.9.20)
- 「農耕社会と弥生時代」『歴博』205号, pp.2-5, 国立歴史民俗博物館. (2017.11.20)
- 自著紹介「国立歴史民俗博物館研究叢書1」『歴博』205号, p.30, 国立歴史民俗博物館. (2017.11.20)
- 「れきはく研究便67 国際シンポジウム「再考! 縄文と弥生―レキハクが目指す日本先史文化の再構築―」『歴博』207号, pp.26-27, (2018.3.20)
- 「気候適応史プロジェクトと国立歴史民俗博物館の研究・展示活動」『高分解能古気候学と歴史・考古学の連携による気候変動に強い社会システムの探索 Newsletter No.16』, pp.4-5, 総合地球環境学研究所. (2018.3.20)
- 「今月の言葉 数値年代を基準にした歴史叙述のすすめ」『月刊考古学ジャーナル』709, p.1, ニューサイエンス社. (2018.3.30)
- 「ここまでわかった弥生時代」『歴史 REAL―日本人の起源―』pp.87-103, 洋泉社 MOOK. (2018.7.5)
- 「コラム 数値年代からの提言―炭素14年代と近畿弥生前期の枠組み」『初期農耕活動と近畿の弥生社会』pp.273-276, 雄山閣. (2018.10.25)
- 「大テーマⅢ 水田稲作のはじまり」『友の会ニュースNo.200』p.2, 歴史民俗博物館振興会 (2018.12.5)
- 「特集 1983年の開館以来のリニューアル 暦年代にもとづく先史時代像の可視化 その基本的な考え方と見どころとは!」『歴博』212号, p.1, 国立歴史民俗博物館. (2019.1.30)
- 「テーマⅢ 水田稲作のはじまり」『歴博』212号, pp.12-15, 国立歴史民俗博物館. (2019.1.30)
- 「第1展示室リニューアルオープン」『友の会ニュースNo.201』p.1, 歴史民俗博物館振興会 (2019.2.5)
- 「殺された人びとが生きた時代と気候」『倭人の真実』とっとり弥生の王国, pp.24-27, 鳥取県埋蔵文化財センター. (2019 Spring)
- 「縄文・弥生 再構築に向けて」『本郷』No.140, pp.14-16, 吉川弘文館. (2019.3)
- 「水田稲作のはじまり」『わくわく! 探検 れきはく日本の歴史』1―先史・古代―, pp.23-32, 吉川弘文館. (2019.4.1)
- 「〈特集2〉B01班(考古班) 考古学データによるヤボネシア人の歴史の解明」『歴博』218号, 国立歴史民俗博物館. (2020.1.30)
- 「自著紹介『日本の先史時代―旧石器・縄文・弥生・古墳時代を読みなおす―』中公新書, 『ニューズレター』(2021.)
- 「国立歴史民俗博物館の愉悦⑧―鏡・剣・玉(福岡市吉武高木遺跡3号木棺出土, 復元複製)」『文部科学省教育通信』No.546, p.2, (株) ジ アース教育新社 (2022.12.26)
- 「古代ゲノムが語る新しい弥生時代人―ヤボネシアゲノム(YAPONESIAN GENOME)」『REKIHAKU』7, pp.76-80. (2022.)
- 「最古の王墓―三種の神器をもつ渡来系弥生人」REKIHAKU 10, pp.76-79 (2023.10.26)
-

「弥生時代にイエネコはいたのか」REKIHAKU 11, pp.60-61 (2024.2.26)

編集協力 「ゲノムで見る躍動の弥生時代」『日経サイエンス』2024年2月号, pp.46-54, (2024.2)

書評

「書評: たたら研究会編『日本古代の鉄生産』」『考古学雑誌』第72巻2号, pp.99-108, (1991.12)

「書評: 中山誠二著『植物考古学と日本の農耕の起源』・小畑弘己著『東北アジア古民族植物学と縄文農耕』」(『日本考古学』第33号, pp.143-149) (2012.5)

講座・他

朝日カルチャーセンター横浜講師 『稲作をめぐる東アジア交流史』(全3回) 2012.8.25-9.22

「弥生土器の始まりとひろがり」兵庫陶芸美術館, 兵庫県篠山市, 2018.4.28

NHK カルチャー名古屋教室 「水田稲作の伝来」『弥生再発見—コメと弥生人』, 名古屋, 2018.4.22

NHK カルチャー名古屋教室 「農耕社会の成立」『弥生再発見—コメと弥生人』, 名古屋, 2018.5.27

NHK カルチャー名古屋教室 「戦いの始まり」『弥生再発見—コメと弥生人』, 名古屋, 2018.7.22

NHK カルチャー名古屋教室 「鉄器の出現」『弥生再発見—コメと弥生人』, 名古屋, 2019.1.27

NHK カルチャー名古屋教室 「弥生時代とは何だったのか」『弥生再発見—コメと弥生人』, 名古屋, 2019.3.2

平成30年度歴博友の会「考古学講座」「リニューアル「水田稲作のはじまり」のみどころについて」, 歴史民俗博物館振興会, 歴博ガイダンスルーム, 2018.12.21

「弥生時代のかごしま」, 鹿児島県上野原縄文の森展示館多目的ルーム, 公益財団法人鹿児島県文化振興財団上野原縄文の森, 2019.1.12

古代を学ぶ会 「第1室リニューアルについて」, 中野区勤労センター, 2019.1.16,

第3回とっとり弥生の王国シンポジウム「殺された人びとが生きた時代と気候」『倭人の真実—DNA・年代・環境—先端研究からのアプローチ』とりぎん文化会館, 鳥取県埋蔵文化財センター, 2019.3.2

オンライン「日本列島人の起源と歴史—考古学・DNA・言語学からのアプローチ—」スズケン市民講座・オンライン教養シリーズ「考古学・DNA・言語学からみた最新の研究成果」全7回 (2020.4)

2020年度 第29回放射線利用総合シンポジウム「炭素14年代測定によって明らかになった縄文・弥生時代の歴史」大阪大学中之島センター, 2021.1.18

「弥生時代研究の変革—ヤボネシアゲノムと考古学—」『続・倭人の真実—青谷上寺地遺跡に暮らした人々—』pp.10-14, 鳥取県, 鳥取銀行とりぎんホール, 2021.10.30.

神奈川考古学同好会, 神奈川県埋蔵文化財センター「ヤボネシアゲノムと考古学」, 2022.4.22,

北海道埋蔵文化財センター「弥生文化とは何か」春季講演会『北海道立埋蔵文化財センター年報』24-令和4(2022)年度, pp.54-69, 2022.5.25, 2023.6.30 (年報刊行日)

福岡・飯塚コミュニティセンター「遠賀川式土器と日本稲作の起源」2022年度古代史連続講座「古代から未来のトビラを拓く」, 2022.9.24

早稲田大学エクステンションセンター 講座名「日本創世の実像—先史時代の移行期とは」オンライン講座 第1回 9.28 旧石器時代から縄文時代へ, 第2回 10.12 縄文時代から弥生時代へ, 第3回 10.26 弥生時代から古墳時代へ

釜山大学校人文大学考古学科東アジアSAP融合人材養成事業チーム 特別講義「渡来系弥生人の出自—核ゲノムからの視点—」, 2023.2.24

栄中日文化センター 名古屋・栄中日文化センター 2023年4月期「縄文時代から古墳時代への道のり—各時代はどのように始まったのか—」第1回 4.19「旧石器時代から縄文時代へ」, 第2回 5.17「縄文時代から弥生時代へ」, 第3回 6.21「弥生時代から古墳時代へ」

かわさき市民アカデミー 2023年度前期 エクセレントⅡ講座「縄文文化と弥生文化を比較する」オンライン講座 第6回 6.16「弥生人の祖先はどこから来たのか—DNAで探る—」, 第7回 6.23「弥生時代の始まりはなぜ500年古くなったのか—炭素年代革命—」

朝日カルチャーセンター新宿教室 「弥生時代の始まりと終わりについて」第1回 7.21「弥生時代のはじまり(九州～東海)」, 第2回 8.18「東・北日本の水田稲作のはじまり(関東～東北)」, 第3回 9.15

「弥生から古墳へ」
青山学院大学青山キャンパス 17309 教室東京, 「考古学的解析の概要」, 文部科学省新学術領域研究「ヤ
ポネシアゲノム」5 年間の成果報告シンポジウム, 2023.9.17
釜山大学校人文学部考古学科「考古学者 藤尾慎一郎の足跡—土器論・年代論・DNA」2023 年 2 学期
考古学科著名学者招待特講, 2023.10.14
栄中日文化センター 名古屋・栄中日文化センター 2023 年 10 月期「弥生時代研究の最前線」第 1 回
10.18「弥生時代の環境—古気候」, 第 2 回 11.15「縄文人と弥生人—多様な弥生時代人」, 第 3 回
12.20「弥生時代は新石器時代から初期青銅器時代か」
令和 5 年度歴博友の会「考古学講座」「弥生土器と DNA との不思議な関係」歴史民俗博物館振興会,
歴博ガイダンスルーム, 2023.11.30
歴博講堂 第 451 回歴博講演会「土器・鉄・年代・DNA」, 2024.3.9
一橋講堂 第 4 回人文知応援大会 パネリスト, 2024.3.10
鳥取銀行とりぎんホール, 「続々・倭人の真実」パネリスト, 2024.3.16